

授業科目	神経障害理学療法治療学Ⅱ				
担当者	岩田 篤 (実務経験者)				
実務経験者の概要	理学療法士として、慢性期病院での15年間の実務経験あり				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では神経機能解剖学を理解したのち、神経症候のメカニズムについて解説します。

■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、どの神経系が障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムを理解できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 脳血管障害患者の症例検討1
- 第2回 脳血管障害患者の症例検討2
- 第3回 姿勢定位障害 (Pusher 現象) と半側空間無視の病態と理学療法
- 第4回 姿勢定位障害 (Pusher 現象) と半側空間無視の病態と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第5回 脳血管障害患者の症例検討3
- 第6回 脳血管障害患者の症例検討4
- 第7回 パーキンソン病の病態と理学療法
- 第8回 パーキンソン病の病態と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第9回 脊髄小脳変性症の病態と理学療法
- 第10回 脊髄小脳変性症の病態と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第11回 多発性硬化症/筋萎縮性側索硬化症/その他神経疾患の病態と理学療法
- 第12回 多発性硬化症/筋萎縮性側索硬化症/その他神経疾患の病態と理学療法 (国家試験対策含む)
- 第13回 神経疾患患者の症例検討1
- 第14回 神経疾患患者の症例検討2
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験(筆記試験): 80%、小テストおよび提出課題: 20%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講義は基本的には教科書の章立てに合わせた形で行います。理解度を促進するために、次の講義で小テストを行いますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。

■ 教科書

書 名: 15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ
 著者名: 石川 朗 (総編集)
 出版社: 中山書店

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 神経理学療法学

著者名：吉尾雅春・他（編集）

出版社：医学書院

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：脳卒中ビジュアルテキスト 第2版

著者名：高木康行

出版社：医学書院

書名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭

出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」の科目の理解が重要である。

また、「総合臨床実習Ⅰ～Ⅲ」へとつながる内容である。